





## 1-1. 総合的な学習「環境と防災」

- ・ 富士常葉大学・静岡県東部地域防災局の協力のもと、毎週月曜日5・6時限目に「環境と防災」の授業を実施することにより、生徒の防災意識の向上を図る。
- ・ 2週(4時間)を1つの単元として、  
メインテーマの講演(1時間)  
+サブテーマ授業(3時間)を実施
- ・ 1年間の構成は、  
7つのテーマ  
+4つのトピックス  
+まとめ





## 1-2. 総合的な学習「環境と防災」

### • 7つのメインテーマ

- ①「富士山の恵み-湧水-」
- ②「化学物質と環境」
- ③「リスクマネジメントの考え方」
- ④「活火山としての富士山」
- ⑤「エコライフを考える」
- ⑥「人生設計と災害」
- ⑦「ものの壊れ方」

### • 4つのトピックス

- ①「裾野高校と環境と防災」
- ②「静岡県の防災体制」
- ③「高校生の防災対策」
- ④「身近な火山学」

### • まとめ

「これから私達が果たす役割」



## 1-3. 総合的な学習「環境と防災」

### 7つのメインテーマ+3つのサブテーマ

① 「富士山の恵み-湧水-」		
災害の歴史(晴天時:五龍の滝)		バーチャルウォーター
② 「化学物質と環境」		
ゴミ山に住む子たち (晴天時:五龍の滝)	エコプラントゲームⅠ	ウシのゲップと合成洗剤
③ 「リスクマネジメントの考え方」		
サバイバルゲーム	エコプラントゲームⅡ	化学物質とのつきあい方
④ 「活火山としての富士山」		
三角巾の使用法 (晴天時:五龍の滝)	富士山と古典文学	火山のお話 (自然の二面性)



## 1-4. 総合的な学習「環境と防災」

### 7つのメインテーマ+3つのサブテーマ

⑤ 「エコライフを考える」		
エコライフ宣言	未来のために今できること	心肺蘇生法
⑥ 「人生設計と災害」		
海外での災害救助 活動と職業観	私のライフプラン	クロスロード
⑦ 「ものの壊れ方」		
防災すごろく	環境すごろく	紙ぶるるを作ろう

### 4つのトピックス

裾野高校と『環境と防災』	静岡県の防災体制
高校生の防災対策	身近な火山学



## 1-5. 総合的な学習「環境と防災」

◎ 「活火山としての富士山」(富士常葉大学 嶋野 准教授)

身近な富士山の成り立ち  
噴火の違い(要因)について  
過去を知ることが未来へつながる

A班 「五龍の滝」(体育科+養護+英語科)

富士山の恵みである湧水を見にいく  
予定でしたが、  
雨天のため「三角巾の使い方」に変更

B班 「富士山と古典文学」

(国語科+社会科+商業科)

『竹取物語』『古今和歌集』に登場する富士山

C班 「火山のお話(自然の二面性)」(理科+数学科+英語科)

恐怖だけでなく観光などの恩恵も理解しよう





## 2. 教職員参集イメージトレーニング

- 裾野高校全教職員を対象に、東海地震を想定し調査を行った。昨年度に比べ、より現実味のある回答が得られた。
- 調査項目として

		平均	
① 参集 まで の 時間 ？	東海地震の長さは？	179秒	
	学校参集 までの 時間？	さあ、行かなくちゃ！（決意まで）	30分
		さあ、行くぞ！（準備完了まで）	105分
		まだ、着かない！（移動時間）	230分
	学校としての体制が整うまで（15人を想定）	210分	

② 参集経路はどの道を考えている？

③ 発災を想定した意識調査（8テーマ）

「休日の部活指導中に発災したらどうしますか？」

「あなたは担任、家族と生徒どっちを・・・」 …



## 3. 教職員研修

- 裾野高校全教職員を対象に、次のゲーム形式の研修会を3日間行いました。
  1. 「DIG」
  2. 「HUG」・・・Hinanjo Unei Game  
(避難所運営ゲーム)
  3. 「Cross Road」
- 担任が厳しくて、事前の打ち合わせや準備などちょっと大変でしたが、私たちが学んできたことを少しでも伝えられたのではないかと思います。
- 裾野高校の先生方は優しいので、私たちの話にも真剣に耳を傾けてくれてうれしかったです。
- この3日間の研修会にはほとんどの先生が参加してくれました。



## 4-1. 外へ、外へ・・・

- 静岡県教育委員会主催  
「高校生防災リーダー育成  
研修会」東部会場の運  
営補助を行い、東部地  
域各校の生徒の防災力  
向上の手助けをした。





## 4-2. 外へ、外へ・・・



- 裾野祭り会場にて、防災パネルの展示や「TOUKAI-0」等のパンフレットを配布し、地域住民に対して防災の呼びかけをする。



## 4-3. 外へ、外へ・・・



- 「一歩一歩の会」の皆さんとの交流会を兼ねた「子ども防災講座」の実施



## 4-4. 外へ、外へ・・・



- ぼうさい甲子園発表会の  
見学
- ワークショップへの参加



## 5-1. これからの私たち

### 成果として

- 無関心から小さな関心へ
  - ① 災害のニュースだけでなく日常のニュースがどのように防災と結びついているかを考え、生徒が先生に話しかけるようになった。
  - ② 総合防災訓練の参加者が増えた。
  - ③ 地域からの防災講座の依頼が増えた。
- 生徒中心で運営した教職員研修は意外と好評でした。
- 年度ごとメンバーが入れ替わる学校現場では、担当教職員だけでなく全教職員で取り組んでいける環境作りが大切であり、どんな教科でも防災教育はできるという共通意識を持てたことは、大きな一歩だと思う。



## 5-2. これからの私たち

### 課題として

- ・「脅しの防災」から「納得の減災」へという「防災教育」の方向性を共通認識として教職員が持つこと。
- ・防災は専門分野もあり、外部講師等に任せきりになる傾向があるので、生徒の実態を加味した講師との綿密な打合せ。
- ・現場でしか学ぶことができないことは多く、「体験」の重要性を生徒にどのように伝えていけばよいのか。
- ・「環境と防災」の継続的な実施（今はまだ途中、これからも続けていくことが必要）
- ・担当教諭の育成（雰囲気は良くなってきています）→誰もが担当できるシラバス作り

今回このような機会を与えてくださりどうもありがとうございました。